

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

雨あがりゆらゆら日傘のねむの花まぶしくわれの丈越して咲く 遠藤 舞
 警戒しふだん近づかぬ猫がガラス戸越しに居間のぞきゆく 阿部はぎの
 ふるさとに子らのつくりし胡瓜なり歯弱くなればすりて飲みほす 山田 濱
 連日の暑き日暮れよオニヤンマ涼しさ曳きてすいすいと飛ぶ 八嶋 正子
 夢に逢う亡き夫優しくほほ笑めば胸つまらせ紅き梅ひとつつみて上出来と首の汗拭く土用干し終え 佐藤 啓子
 夕涼み橋に眺むる川岸の釣り人の影に亡き夫偲ぶ 佐藤 啓子
 この炎暑漸くしのぎて秋めける空の青さに盆を迎ふる 高子うこん
 懸命に生きてる今が青春と老いる自分に言い聞かせむ 遠藤 行夫
 一人息子南海に散りし悲運さを老女は語り夏雲見つむ 後藤今朝雄

【評】一首目、庭の合歡であろう、まるで童謡のように優しく伝わりるところがいい。「まぶしく」は実感。
 二首目、観察の利いたおもしろい歌だ。猫の姿、表情をあれこれ空想してしまう。
 三首目、懐かしい何よりのみやげを食するのである。それは忘れ得ざる味であつたらう。

俳壇

遠藤 秋尾 選

朝顔やひと日の彩を惜しみけり 高子うこん
 立葵空はいまだに暮れやらす 石田みどり
 夏つばめ道細り行く城下町 服部 忠孝
 亡き人に話しかけつつ墓洗ひ 岩澤 伍峯

風間市長の風のキャッやき

「武将」

このお三方には定職があり、それがまた堅い仕事で、驚きとそのギャップが楽しくなり、話をしていておもしろさと期待度が上がりました。さらに、東京、巨理、白石在住と、それぞれに生活状況が違う上に、たくさんの仲間が各地にいるそうです。実は、彼らは戦国武将を愛し、その武将の歴史に興味を持ち、愛用した甲冑に魅せられ、自ら着用し、祭りなどでにぎわいを作り出して盛り上げてきた方々

の気持ちを忘れず、にぎわいを作り出そうとしています。白石を「戦国ハブ都市」にし、各地の武将隊との交流拠点都市を目指し、経済効果ももたらす。素晴らしいことですし、覇権を握ることを応援したくなります。市民の皆さんがこの「風のささやき」を目にしている時には、趣旨や武将隊名など、今後の活動内容が紹介されていますので、応援よろしく願います。各地の武将が、ここ白石に集

結する。考えただけでわくわくします。その折には、奥方さまやお姫さまもお連れいただければ、さらに華やかになります。彼らの活動を大いに楽しみにしています。
 今月はいよいよ「鬼小十郎まつり」。彼らも出演しますし、全国から観光客も白石に来ます。おもてなしの心を持って、みんなで交流を深め、この祭りを楽しみましょう。ゆるキャラのポチ武者こじゅーろうも参加しますので、ご期待ください。人が動く所は、経済も動きます。その時を逃すことのないように！



▲白石戦国武将隊「奥州片倉組」結成！

柳壇

四電 英夫 選

蔵王嶺を越えくる風や秋匂ふそよりとも動かざる葉よ早畑笠脱げばなじみの熨盆踊 寺崎 悦子
 限られし命を燃やす蝉しぐれ 岩松 隆志
 松風に鳴いてすぐ去る秋の蝉 斎藤 典子
 振花といふねじりありやわらかく 跡部 祐子

【評】一句目、丹精の朝顔であろう。朝は至福のひととき、その花もやや終わりに近い。花の命の短さを一句に。
 二句目、立葵の花の高さに空はまだまだ明るい。暮れなずむ地上と空の青さの対比に、立葵の季節が生きた句。
 三句目、城下町は細く曲が多い町。もうすぐ南へ去りゆく夏つばめが惜別の城下を飛ぶ姿に、親しみのまなざしで見ている作者である。

叱ること忘れた親の無関心 草野 清
 子宝が親の年金たべにくる 石田みどり
 日々老いる生きてる今を懸命に 遠藤 行夫
 薬天に涙ぐましいサポーター 阿部はぎの
 倅せは良い師良い友めぐりあい 斎藤 典子
 猛暑日は紅眉全部削られる 佐藤 啓子
 盆が来る庭の草とる生身魂 高子うこん
 山動き男の牙城潰え去る 百 一山
 回覧板今日も元気に廻し読み 大庭 良子
 照り続き朝焼けに祈る空頼み 阿部みさ子

【評】一句目、地震、雷と並んで権威のあった父親の威厳も今や失墜。でも、無関心はもちろん、放棄などは絶対ないことを祈りたい。
 二句目、オレオレ詐欺も怖い、宝物のように育てた我が子が、年金をねらってくるとは皮肉。「泥棒を捕まえてみれば我が子なり」？
 三句目、正月は冥土の旅の一里塚…といわれるように、人は毎日がカウントダウン。「一寸の光陰軽んずべからず」。先人の教えは尊い。

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して— 公立刈田総合病院紹介



公立刈田総合病院 ☎25-2145

新人看護職員の育成

「保健師助産師看護師法」及び「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部を改正する法律が成立し、平成22年4月から新たに業務に従事する看護職員の臨床研修などが努力義務化されました。

これを受け、当院では、本年度から臨床研修制度を導入しました。これは、看護学校卒業後、初めて臨床現場で働く看護師に対して、1年間を研修期間と設定し、学校で学んだ知識・技術をもとに、臨床で必要なさまざまな技術を確実に習得させようとするものです。研修責任者を置き、各部署には教育担当者、実地指導者を配置し、綿密な教育プログラムに基づいた計画的な教育指導を行っています。

4月に入職した4人の新人看護師は、各病棟の特殊性を理解しながら技術を学ぶため、4カ所の病棟を回るローテーション研修を8月末で終了し、高林院長から修了証書が授与されました。この研修体験をもとにして、看護部長との面談で本人の希望を最優先させた配属病棟を

決定し、今は、10月から開始する夜間勤務への多少の不安を感じつつ、後期研修への期待を抱いています。

当院では、これからも医療安全の確保を推進するとともに、一人一人の看護職員を大切に、地域の皆さまに信頼される看護職員の育成に努めてまいります。



▲高林院長から修了証書を授与

まちの話題

～あの日、あの時～

Diary

元気をもらってありがとう！ 放課後児童クラブ児童と母親クラブ会員が介護老人保健施設「清風」を訪問

8月19日、第一児童館を利用している放課後児童クラブの児童30人とその母親で作るすぎのこ母親クラブ(佐々木とし子会長)の会員10人が、介護老人保健施設「清風」を訪問しました。

放課後児童クラブに通っている3～6年生の児童は、ソーラン節の踊りを披露。すぎのこ母親クラブのメンバーは、大型絵本の読み聞かせやクラブ活動で作ったお花の寄せ植え鉢をプレゼントしました。

その後、児童と入所者は、歌に合わせた手遊びも一緒に楽しみ、入所者は、「元気をもらってありがとう」と笑顔で話していました。

訪問の後、参加した児童は第一児童館で更生保護女性会・白石地区(岩崎美智子会長)の委員8人と一緒にカ

レーを作り、おいしいカレーを食べながら、「喜んでもらってよかった」と話していました。



▲入所者の皆さんと手遊びをする子どもたち